

平成 27 年度

病害虫発生予報第 5 号

平成 27 年 8 月 27 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 今月のトピックス(ダイズの吸実性カメムシについて)	12
6. 気象のデータ	13
7. おしらせ	15

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネ(普通期)では、斑点米カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。周辺圃場の収穫状況に注意しながら、薬剤散布を行ってください。ツマグロヨコバイの発生量は**やや多**、トビイロウンカの発生量は**平年並**と予想されます。

ダイズでは、ハスモンヨトウ、吸実性カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。ハスモンヨトウは、若齢幼虫期に薬剤散布を行ってください。吸実性カメムシ類は、今後増加する可能性もありますので圃場周辺の状況に注意してください。薬剤散布は莢伸長期および子実肥大中期の 2 回散布を行うとより効果的です。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病の発生量は**やや多**と予想されます。果実への感染防止に努めるとともに感染源となる枯枝の除去も行ってください。かいよう病(温州、中晩柑)、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。カンキツ、カキ等で

の被害発生に注意し、圃場への飛来を認めたら直ちに防除してください。

3) 茶

チャでは、チャノホソガの発生時期は**早**、発生量は**平年並**、炭疽病、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**、クワシロカイガラムシの発生時期は**平年並～遅**、発生量は**平年並**と予想されます。カンザワハダニの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**やや少**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
						下旬	中旬	下旬	中旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	中	普通					1) 周辺圃場で収穫作業がある時は、侵入に注意してください。 2) 薬剤散布は穂揃い期に実施してください。 3) 防除後も水田への侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7～10日後に2回目の防除をしてください。 4) 薬剤散布する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。
	ツマグロヨコバイ	—	やや多	大	低					1) 発生量はやや多ですが、実害は少ないと思われます。
	トビイロウンカ	—	平年並	小	低					1) 多飛来が確認されていないので、防除の必要はありません。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	中	普通					1) 一部の圃場では、既に発生が確認されています。圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見、早期防除に努めてください。 2) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度				1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。 2) 薬剤散布は、9月中旬(開花 20 日後・莢伸長期)と10月上旬(開花 40 日後・子実肥大中期)の2回散布が効果的です。 3) 1回散布の場合は、9月下旬頃(開花 30 日後・子実肥大初期)に散布してください。 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。 5) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。
カンキツ	黒点病	—	やや多	中	普通	発病密度				1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、果実への感染防止に努めてください。
	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低	発病密度				1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	ダニ密度				1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1葉当りの雌成虫寄生数が0.5~1.0頭程度を目安に防除してください。 3) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通	成虫密度				1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判りにくくなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	多	大	高					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫発生予察注意報第3号(8月3日発表)。 2) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 3) 大雨、強風などの後に、急に圃場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等では、発生状況に十分に注意してください。 4) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 1葉期までに葉の毛茸がとれた傷から感染します。 2) 感染好適温度は25℃～27℃です。 3) 三番茶期から秋番茶期にかけて増加します。 4) 治療剤(EBI剤など)は耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 年間10世代程発生します。現状は、旧葉裏に生息しています。 2) 夏季の30℃以上の高温条件下では、発生が抑制されます。 3) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	チャノホソガ(第4世代幼虫)	早	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽開葉初期の孵化幼虫(潜葉期、絵描き状態)を対象に防除してください。 2) 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。 3) 発生時期が早くなっていますので注意してください。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は10世代程の発生が予測されます。次の発生盛期は9月第2～第3半旬頃と予想されます。 2) 新芽の先が褐変し、ひどいときは落葉します。 3) 晴天が続くと発生が多くなります。 4) 秋芽の開葉初期に防除してください。 5) 幼虫は葉裏に生息するので丁寧に防除してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	普通					1) 本年は北勢地域では 8 世代程発生が予測されます。次の第 6 世代の発生盛期は 9 月第 1～第 2 半旬頃と予想されます。 2) 萌芽初期に新芽の基部から加害し、条痕となります。 3) 晴天が続くと発生が多くなります。 4) 秋芽の萌芽期～開葉初期に防除してください。
	クワシロカイガラムシ	平年並～遅	平年並	小	普通					1) 有効積算温度による予測式(8月24日予測)では幼虫孵化最盛日は平年並～遅(予測日は予報根拠を参照)と予想されます。 2) 防除適期は孵化最盛日から 2～4 日後頃です。 3) この時期はばらつきが大きくなるため圃場で幼虫の孵化を確認してから防除してください。 4) 天敵に影響の少ない薬剤を選択してください。
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通					1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 3) 耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや少	小	普通					1) 幼虫の発生は 8～10 月に多くなります。 2) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(8月第1半旬～第3半旬・松阪市)では、クモヘリカメムシ誘殺数は水田位置で1頭(平年3.6頭)と少、畑位置で107頭(8年平均54.0頭)と多の傾向、ミナミアオカメムシ誘殺数は水田位置で1頭(5年平均4.6頭)とやや少の傾向、畑位置で10頭(4年平均30.6頭)とやや少の傾向 (－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率47.2%(平年35.6%)と多、すくい取り虫数6.0頭(平年1.2頭)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(7月第3半旬～8月第2半旬・松阪市)では、誘殺数は水田位置で3頭(平年2.6頭)とやや多、畑位置で5,367頭(8年平均2,676.5頭)と多の傾向 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率36.3%(平年34.2%)とやや多、払い落とし成虫数4.1頭(平年7.1頭)と少、すくい取り虫数5.3頭(平年20.9頭)と少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	トビイロウンカ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(5月第1半旬～8月第3半旬)では、松阪市で0頭(平年0.03頭)と平年並に少 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率0%(平年0.2%)と平年並に少、払い落とし成虫数0頭(平年0.1頭)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ(7月第5半旬～8月第4半旬)では、松阪市嬉野川北町で386頭(平年313.7頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、葉食害度0.6(9年平均0.1)と多の傾向、1a当り白変か所数1.3か所(平年0.5か所)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: フェロモントラップ、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(8月第1半旬～第3半旬・松阪市)では、誘殺数はミナミアオカメムシ水田位置1頭(5年平均4.6頭)とやや少の傾向、畑位置10頭(4年平均30.6頭)とやや少の傾向、イチモンジカメムシ6頭(平年6.0頭)と平年並、ホソヘリカメムシ3頭(7年平均42.7頭)と少の傾向 (－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、25株当り寄生虫数0頭(平年0.1頭)とやや少 (－)</p> <p>3) 水稻巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率4.7%(5年平均1.3%)と多の傾向、すくい取り虫数0.12頭(5年平均0.03頭)と多の傾向 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無～多(概して平年並) (±)</p> <p>考察： 水稻巡回調査結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月中旬、無防除)では、果実発病度88.1(平年55.7)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、果実発病度3.7(平年6.4)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察： 一般圃場の状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月中旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率0%(平均5.2%)と少、発病果率0%(平年28.2%)と少 (－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)のうち、温州みかんでは春葉発病度0(平年0.2)と平年並、果実発病度0(平年0.5)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)のうち、中晩柑では春葉発病度0.7(平年3.0)とやや少、果実発病度1.0(平年4.3)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑では、現状の発生量は平年並と考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月中旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区3.0頭(平年20.8頭)と少、慣行防除区62頭(平年89.0頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率23.1%(平年39.4%)とやや少、春葉における寄生葉率1.1%(平年7.6%)と少、寄生頭数0.02頭/葉(平年0.34頭/葉)と少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃黄色粘着トラップ(8月上旬)では、誘殺数9.6頭(平年6.7頭)と多 (+)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬、無防除)では、100果当り寄生虫数0頭(平年7.9頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害果率0.3%(平年1.4%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:8月11日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ1,778頭(平年669.1頭)と多、ツヤアオカメムシ5頭(平年40.9頭)と少 (+)</p> <p>2) 予察灯(松阪市:7月21日～8月15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ2,743頭(平年614.7頭)と多、ツヤアオカメムシ66頭(平年69.5頭)と平年並、クサギカメムシ1,784頭(平年185.3頭)と多 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(7月17日～8月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で3,583頭(平年890.9頭)と多、中間地(津市白山町二本木)で5,914頭(平年1,616.3頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)で2,088頭(平年258.6頭)と多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、ナシ(無袋栽培)での被害果率1.0%(平年1.4%)と平年並、カキでの被害果率1.5%(平年0.6%)と多 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや少～やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：予察灯、フェロモントラップ、巡回調査の結果を重視して、予想発生量は多と考えます。</p>
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃では、二番茶期の病葉数0枚/m²(9年平均0.5枚/m²)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発病葉数5.7枚/m²(平年1.0枚/m²)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、寄生葉率0%(平年8.4%)と少、寄生頭数0頭/葉(平年0.45頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、寄生葉率0%(平年1.6%)と少、寄生頭数0頭/葉(平年0.03頭/葉)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	早	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (－)</p> <p>2) 県予察圃では、第3世代成虫のフェロモントラップ誘殺ピークは8月第1半旬(平年8月第5半旬)と早 (発生時期－)</p> <p>3) 予察圃フェロモントラップ(7月第5半旬～8月第4半旬)では、誘殺数1,380頭(平年1,077.4頭)とやや多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、巻葉数0.04枚/m²(平年1.5枚/m²)と少 (－)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少 (－)</p> <p>考察：発生時期は早、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第5半旬～8月第4半旬)では、捕殺数1頭(平年17.8頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、叩き落とし虫数0.6頭(平年1.1頭)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、今後の増加を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第5半旬～8月第4半旬)では、捕殺数1,548頭(平年6,133.6頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、叩き落とし虫数3.6頭(平年8.6頭)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、今後の増加を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	平年並 ～遅	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (+)</p> <p>2) 有効積算温度による発生消長予測式(8月24日予測)では、第3世代幼虫孵化最盛予測日は四日市市9月11日(平年9月10日)と平年並、亀山市9月12日(平年9月12日)と平年並、松阪市粥見では9月18日(平年9月13日)と遅 (発生時期+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、雄繭寄生株率0.3%(平年5.9%)と少、雌成虫寄生株率0%(平年8.8%)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：発生消長予測式から、予想発生時期は平年並～遅と考えます。現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想、降水量は平年並と予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査ほ場(8月第2週、苗床)では、発病株率0%(平年0.6%)と少 (—)</p> <p>3) 一般圃場では、地域差があり、中勢地域での発生量はやや多いが、南勢地域では発生量は少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件の変化を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、向こう1か月の気温は第1週目、第2週目では高い予想 (+)</p> <p>2) フェロモントラップ(松阪市・7月第6半旬～8月第4半旬)では成虫の誘殺数19頭(平年46.5頭)とやや少 (—)</p> <p>3) 巡回調査ほ場(8月第2週)では、被害葉率0%(平年1.2%)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (—)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「ダイズの吸実性カメムシ類について」

◆加害するカメムシ類◆

カメムシ類は、さまざまな作物を加害します。ダイズでの被害は、種子の被害と葉の被害とに大別できます。種子の被害は、種子を吸害することによっておこります。外見上は莢に傷がないため被害は目立ちませんが、種子が直接吸害されるため、著しく減収します。葉や茎の被害は、吸汁することによっておこります。

種子を加害する代表的なカメムシ類は、アオクサカメムシ(図 1)、イチモンジカメムシ(図 2)、ホソヘリカメムシ(図 3)、ミナミアオカメムシ(図 4)です。



図 1. アオクサカメムシ (左:全体、右:腹部背板)



図 2. イチモンジカメムシ



図 3. ホソヘリカメムシ



図 4. ミナミアオカメムシ (左:全体、右:腹部背板)

◆被害の様子◆

若い莢を吸害すると莢が黄変して落下します。種子が大きくなった莢を吸害すると莢は落ちないものの種子が被害粒となります。被害の程度は、種子が小さいほど著しくなります。

被害粒は、萎縮粒(しぼみ粒)、変形粒(へこみ粒)、変色粒(しみ粒)(図 5)となり、品質を低下させます。



図 5. 被害粒 (左:萎縮粒、中:変形粒、右:変色粒)

◆防除対策◆

耕種的防除法

- 1) 畦畔雑草を除去しましょう。

化学的防除法

- 1) 薬剤散布による防除を行いましょう。
- 2) 結莢期から子実肥大期の防除が効果的です。
- 3) 発生が続く場合は、追加防除が必要です。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 27 年 8 月 22 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、期間の前半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並の見込みです。

1 週目 8 月 22 日～ 28 日	高気圧に覆われて晴れる所もありますが、 気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広が りやすいでしょう。	津の降水日数・晴 れ日数の平年値 1.9 日・4.5 日
2 週目 8 月 29 日～ 9 月 4 日	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧 に覆われやすく、平年に比べ曇りや雨の日 が少ないでしょう。	同 2.0 日・4.4 日
3～4 週目 9 月 5 日～18 日	低気圧と高気圧が交互に通る天気は数日 の周期で変わるでしょう。	同 4.9 日・7.6 日

東海地方週間天気予報 (平成 27 年 8 月 26 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台 発表)

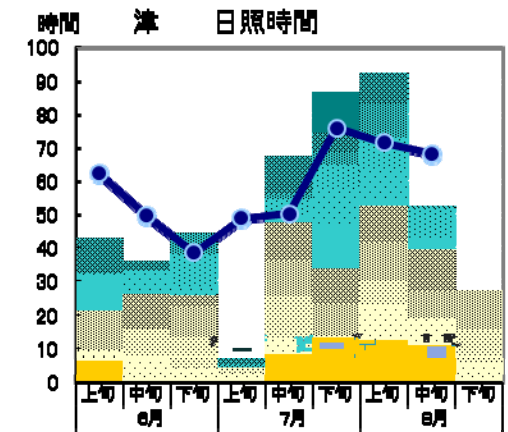
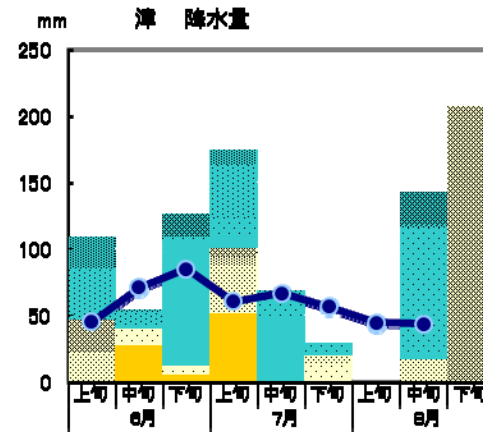
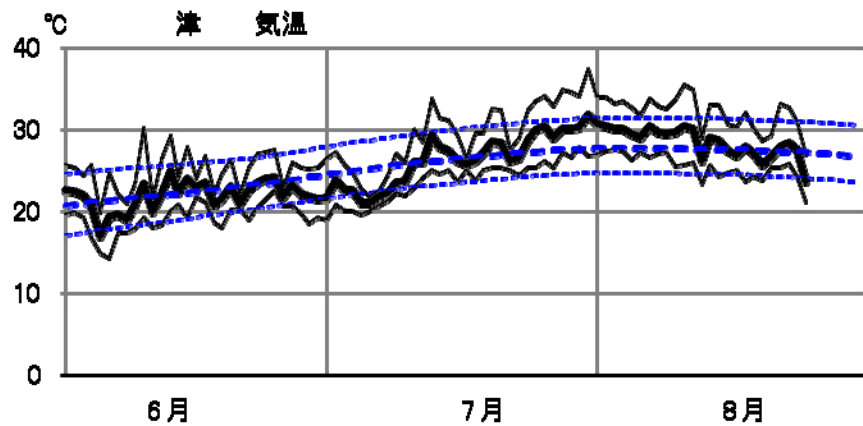
予報期間 8 月 27 日～9 月 2 日

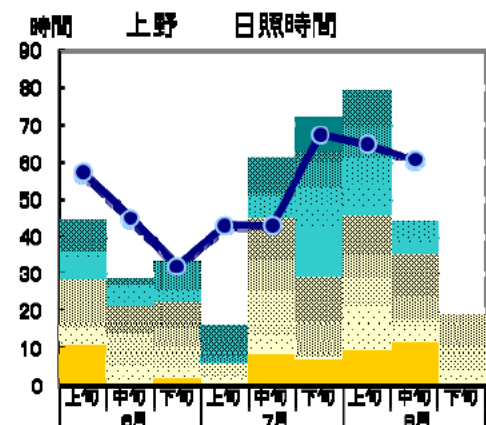
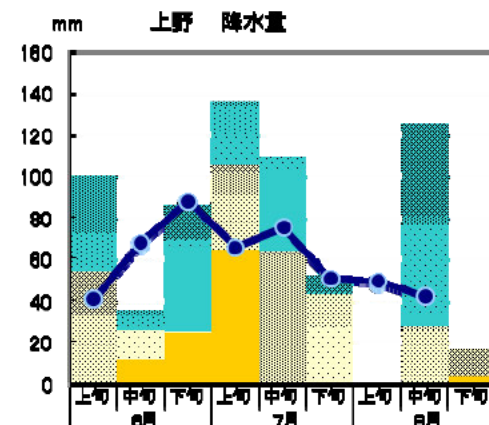
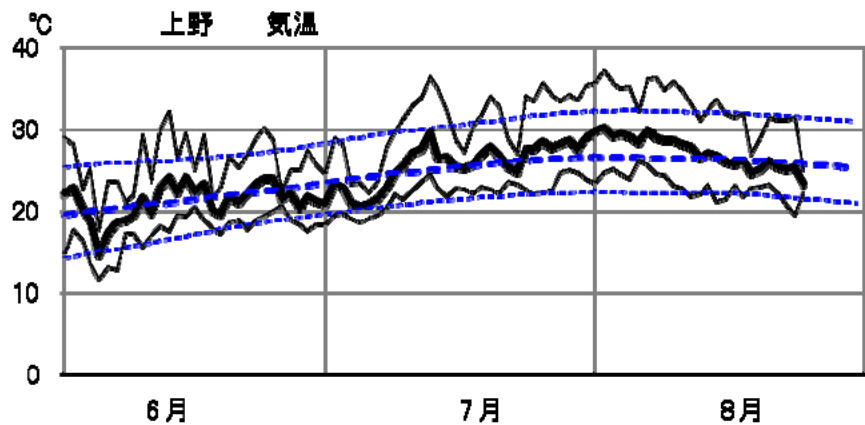
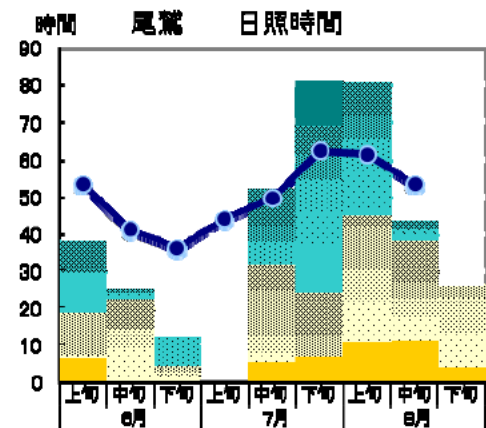
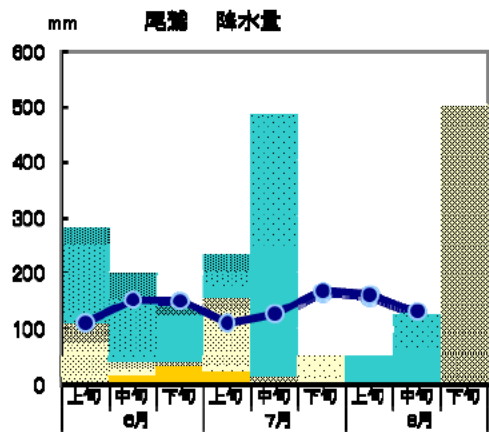
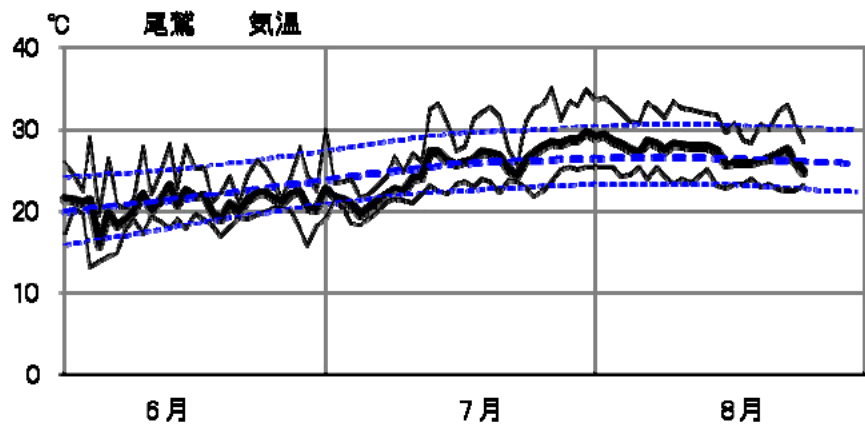
向こう一週間は、前線や湿った気流の影響で曇りや雨の降る日が多いでしょう。

最高気温はと最低気温は平年並か平年より低い見込みです。

降水量は、平年並か平年より多いでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8 月 25 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬年平値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬年平値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月23日(木)(済み) 第2回 5月28日(木)(済み)
- 第3回 6月25日(木)(済み) 第4回 7月23日(木)(済み)
- 第5回 8月27日(木)(今回) 第6回 10月22日(木)
- 第7回 3月24日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotobiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>